

【認知症とはどんな内容なの？（1）】

★

① 認知症とは“脳や身体の疾患を原因として記憶・判断力などの障害が起こり、普通の社会生活が営めなくなった状態”とされています。

認知症になると、脳が病的に障害され、一度獲得した知的能力が著しく低下します。その原因は、頭蓋内の病気によるもの、身体の病気によるものなどがあり、最も多いのは「アルツハイマー型認知症」と「脳血管性認知症」です。

② 「若年性認知症」は、働き盛りの年代で認知症になることで、18～64歳という比較的若い年代にみられる認知症の総称です。国の研究によれば、患者数は推計27,000～35,000人、現実にはその3倍以上にも及ぶとされています。

③ 高齢化と平均寿命の延びに伴って、わが国における認知症の患者数は年々増加し、今では85歳以上の高齢者の4人に1人が認知症患者とされています。

国の発表では、2000年時点で65歳以上の高齢者は総人口の17.4%を占め、そのうちの7%（約160万人）が認知症の患者で、総人口に占める高齢者の割合が年々増えていくのと同時に、認知症の患者数も増加し、2010年には約220万人、2020年には約300万人にまで増えることが予想されています。

④ 認知症になると誰にでも見られるのが知的能力の低下です。認知症の症状は、中心となる「中核症状」と、それに伴って起こる「周辺症状」に分けられます。

初期には記銘力障害・記憶力障害がみられ、進行が進むにつれて見当識障害以降の症状が現れます。進行するにつれ、幻覚や妄想、徘徊など、さまざまな症状が人によって現れます。

『中核症状』

・「記銘力障害・記憶力障害」

新しいことを覚えたり（記銘力）、しっかり記憶しておいたり（記憶力）することができなくなります。特徴として、古い記憶ではなく新しい記憶がなくなります。たとえば、食事をした直後に食事をしたことを忘れてしまうなどの症状が出ます。

・「見当識障害」

今が「いつ」で、ここが「どこ」なのか、自分や周囲にいる人が「だれ」なのかが分からなくなります。

・「計算力障害」

おつりの計算ができなくなったり、支払う金額を間違えたりします。足し算、引き算の簡単な計算ができなくなります。

・「感情障害」

興奮しやすい一方で、うつになりやすくなります。感情が非常に不安定にな

ります。

- ・「思考力障害」

判断力、注意力が低下し、筋道をたててものごとを考えることができなくなります。

- ・「異常行動」

症状が重度になると、周囲がまったく理解できない無意味な行動をとるようになります。

『周辺症状』

- ・「幻覚・妄想」

亡くなった人が見えたとか、神様の声を聞いたとか、ものが盗まれたとかの幻覚・妄想の症状が出ます。

- ・「徘徊」

行き当たりばつたりの場合もありますが、自分が育った家や大切に受け入れられた場所を目指している場合があります。

- ・「うつ・意欲低下・感情不安定」

ヤル気がなく自発性が低下し、うつ状態になります。また、焦燥感や不安感が強くなるので、感情が不安定になります。

- ・「不眠・失禁」

不眠は昼と夜の生活リズムが乱れてしまい起きます。また、失禁はトイレの場所が分からなかったり、衣類の脱ぎ着に必要以上の時間がかかるなどの原因があることもあります。

⑤ 中核症状（認知機能の障害）により、周辺症状が二次的に生じるという考え方及び BPSD（認知症に伴う行動障害と精神症状＝周辺症状）という考え方があります。認知障害の程度とはとくに関係がなく、認知症の中期に問題行動などが出現（患者の約 6 割）し、介護者に大きな負担となりますが適切な対応で軽快する事例があります。